こまつな・夏どり（品種：まさみ）

印旛農林振興センター

1　地域名

八街市交進地区

2　栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

⑴　取組戸数　　１戸

⑵　栽培面積　　10ａ

⑶　収穫量又は出荷量　　1,043kg

⑷　出荷先又は販売方法　市場出荷（共選共販）

3　ちばエコ基準達成状況

区　　分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	２回	３回
化学肥料（窒素成分量）	4.2kg/10a	5.5kg/10a

4　事例のあらまし

ＪＡいんばグリーンやちまた園芸部産直葉物部会は、こまつな等の葉物を周年出荷しています。

当部会では、以前から、食の安全、減農薬等を始めとする近年の消費者のニーズ等に応えようと、「安全・安心」な農産物栽培への取組について検討してきました。

その一つとして「ちばエコ農産物」についても検討をしていましたが、今まで、「ちばエコ農産物」の栽培に取り組むまでには、至っていませんでした。

この事例は、今回初めて１戸の農家が「ちばエコ農産物」の栽培に取り組んだ実証事例です。

食物残渣由来のたい肥と発酵鶏ふんにより化学肥料の低減を図り、防虫ネットの利用により化学農薬の削減に取り組みました。

また、当地域での「ちばエコ農産物」の実証と併せ、当生産者の所属する産直葉物部会への普及拡大を図るために現地検討会を行いました。

5　背景・動機

八街市内の葉物生産者を構成員とするＪＡいんばグリーンやちまた園芸部産直葉物部会では、こまつな等の葉物を周年出荷しています。

近年の消費者等のニーズに応じるために、以前から食の安全・減農薬等の取組について検討してきました。

その一つとして「ちばエコ農産物」についても検討してきましたが、今まで、「ちばエコ農産物」に取り組むまでには、至っていませんでした。

そのため、当部会において、「ちばエコ農産物」の技術実証及び当部会に対する普及拡大を図るための現地検討会が必要でした。

今回の「ちばエコ農産物」の実証については、露地でソルゴーなどの緑肥による土づくりや、ハウスで、ふすまを利用した土壌還元消毒などに取り組んでいる「環境にやさしい農業」に積極的な農家に実施してもらいました。

防虫ネット被覆による害虫対策

産直葉物部会の現地検討会

6　栽培方法

(1)　土づくり

ソルゴーなどの緑肥による土づくりを積極的に心がけていますが、今回は、初めて食物残渣由来のたい肥を使用します。

また、発酵鶏ふんを利用することにより、化学肥料の低減を行いました。

(2)　播種

発芽を揃えるため、発芽前に十分かん水をし、土壌水分を湿らせることが必要です。そのため、畝立前に10分程度チューブ潅水を実施します。

畝幅180cmとし、播種機（クリーンシーダー）により、８条播き（条間15cm、株間

5cm）で、は種します。

８条播き33mのベッド１畝で、ＦＧ200g入りが約500袋ほど収穫できるので、１日で結束・出荷できる量を計算し、１回あたりの播種面積を決めます。

(3) 病害虫防除

播種後、防虫ネット（0.8mm）をトンネル状に被覆します。

裾は完全に土の中に埋めて、虫の侵入を防ぎます。

また、防虫ネットを除去すると、すぐにキスジノミハムシ等の成虫が侵入するため、収穫直前にネットを外すようにし、１ベッドは１～２日で収穫を終えるようにします。

栽培期間中にトンネルの内側で虫が発生した場合は、ネットの上から薬剤散布します。

また、９月からの白さび病やコナガ、キスジノミハムシ等の発生に注意します。

ア　栽培管理

作　業　名	実施年月日
前作収穫終了	平成20年 2月15日
耕起	7月 2日
畝立、播種及びトンネル被覆	8月1日～ 8月26日
病害虫防除	8月24日
収穫開始	8月28日
収穫終了	10月 9日

＊栽培面積10ａについて、播種を約１カ月（１～２日おきに播種）実施しており、収穫も約１カ月を要した。

イ　使用資材

（ア）土づくり・施肥等

（10aあたり）

使用銘柄（N：P：K）	実施年月日	施用量	全　N	化学N
アグリ有機の環（食物残渣由来たい肥）（2.08:1.89:1.43）	平成20年7月15日	200kg	4kg	0kg
くみあい複合りん加安484(14:18:14)	8月 1日	30kg	4.2kg	4.2kg
発酵鶏糞	8月 1日	300kg	7.5kg	0kg
合計			15.7kg	4.2kg

（イ） 病害虫・雑草防除等

使　用　農　薬	対象病害虫	実施年月日
アファーム乳剤	コナガ	平成20年 8月24日
ランマンフロアブル	白さび病	8月24日

7　今後の展望等

⑴ 「ちばエコ農産物」周年出荷の安定化に向けた取り組み

今回初めて「ちばエコ農産物」に取り組んだ農家は、従来からの取組もあり、こまつな・夏どり栽培について認証を得ることが出来ました。

今後は、この夏どり１作型だけでなく、周年の出荷物全てについて「ちばエコ農産物」の認証を得て販売していくことが望まれます。

しかし、こまつなの反収は、天候に左右されやすく年次格差が大きいのが現状であり、特に梅雨～夏場、秋雨及び厳寒期に安定した出荷量の確保が課題です。

なお、今作においては、栽培期間中に記録的なゲリラ豪雨（71㎜：９月20日）があり、ほ場一部の土壌が流亡したり、豪雨を起因として軟腐病や炭疽病が発生するなどにより、収量が低くなってしまった畝もありました。

そのため、安定した出荷量を確保するために、引き続き栽培技術等の向上が必要です。

⑵ 有利販売及び市場評価向上に向けた取り組み

今回「ちばエコ農業」に取り組んだ農家のこまつなについては、共選共販のため、他の部会員（一般栽培）との価格差が出ていません。

そのため、有利販売のためには、部会全員が「ちばエコ農産物」に取り組む必要があります。

現地検討会に参加した産直葉物部会員は、地元（八街市）で、ちばエコ基準により、こまつな・夏どり栽培ができることについて実感しました。

そのため、産直葉物部会全員が、こまつなの「ちばエコ農産物」に取り組むことができるよう、今後も栽培講習会や現地検討会等を通じ、知識や栽培技術を研鑽していく予定です。